

一般社団法人 社会福祉経営全国会議

コロナ・実態・事例ニュース



2023年8月16日発行 (No.25) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902

電話 06-6772-1360 Fax06-6772-1376 Eメール/jimukyoku1@f-zenkoku.net

コロナ第9波！福祉の現場で何が起きているのか！緊急アンケート！

お寄せいただいた声をご紹介します！

VOL.1

現在、直面している状況・課題・問題点など…

●5類になったので、疑わしい場合も検査をしてくれと言えず、いくら保育園でコロナがでているとわかりつけ医に伝えてくれと言っても、かかりつけ医がコロナではないと言い切られたりするケースがある。インフルエンザと同等になり、なかなか検査をしてくれないので、1人コロナが発生したクラスで、症状があってもどこまで感染しているのかわからないのが現状です。コロナに限らず、保育現場はRSウイルスやアデノウイルス等、感染症のオンパレードだが、他の感染症についても、保護者が検査をしてくれと言わない限り、検査してくれないので、感染症を防ぐことはできない。すべての検査は無料で行ってほしい。(保育)

●定点観測結果が指標となって市中感染の状況が把握し難い。世間一般的な注意の意識には繋がらない。感染拡大のリスクと隣り合わせながら認知症対応型通所介護に求められる役割として一番は止めず減らさず営業を継続すること。充分理解しているし応えたいが、他事業所の感染状況等の情報も入らなくなり注意の加減が難しくなった。(高齢)

●現在、施設内においては感染者はいない。夜勤のみの看護師が感染し休まれたことで、勤務調整して、体制を整えた。(乳児院)

●クラスターが起こっても以前のように行政検査が行われないため、感染者の特定や分離ができず、感染の広がりを止められない。また、医療費がかかってくるため、すぐに医療機関へつなぐことができない状況がある。(障害)

●5類移行前、移行後含めて、今のところクラスターは発生していない。先月、園内保護者を含めての「なつまつり」を開催するなど、秋以降も、行事を少しずつ平時に戻していく中で、急激な広がりが起こらないか危惧している。(保育)



国や自治体への要望…

●通所介護の事業所には営業休止や縮小をした際の補償が無い。けれど集団感染を食い止めるには集まる人を減らす等して収入を減らしても感染対応を優先せざるを得ない。入所施設以外への補償を切実に求めたい。(高齢)

●コロナ補助金があった際には、人件費として使用できたものもあったため、派遣職員等人材確保に取り組めたが、今年度は、大阪市では100万の補助金と言われている。職員に次々と感染が広がり、クラスターとなった時の人材確保が大変。コロナ補助金800万とは言わないが、その半額ぐらいで非常勤職員が雇用できるぐらいの補助があればと感じる。(乳児院)

●感染状況を精査し、必要に応じて行政検査を無料で行えるようにすべき。また、コロナに関する医療費は無料に戻し、早く医療機関に繋がれるようにする。(障害)

●保育は、休園しても運営費上は支給を受けているが、今後の制度改悪で、実績補助に改悪されないように、しっかりと、こども家庭庁などの動きを注視するとともに、現状補助金支給制度を関係省庁に堅持していただきたい。(保育)

コロナ第9波！福祉の現場で何が起きているのか！緊急アンケート！

<https://forms.gle/obzEvNmHahwFP7br5>

